

第70回高エネルギー加速器研究機構 教育研究評議会議事要旨

日 時 令和4年5月26日(木) 10時00分～12時05分

場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟 大会議室(リモート(Zoom)併用)

出席者 山内議長、足立評議員、内丸評議員、岡田評議員、幅評議員、高橋評議員、青木評議員、
雨宮評議員、大井川評議員、加藤評議員、河村評議員、久世評議員、小杉評議員、
小関評議員、小林評議員、齊藤評議員、菅原評議員、飛山評議員、中野評議員、
中畑評議員、波戸評議員、福村評議員、真鍋評議員、森評議員

陪席者 羽澄量子場計測システム国際拠点長、住吉監事、辻監事、五味田総務部長、阿部財務部長、
永木研究協力部長、外山施設部長、幸田参事役、柴沼参事役、坪監査室長、櫻井人事労務課
長、横山主計課長、岡田研究協力課長、佐藤施設企画課長、柴原東海管理課長、根本決算室
長、河西QUP業務推進室長、山口国際プロジェクト推進室長

配付資料

1. 第7期高エネルギー加速器研究機構教育研究評議会名簿
2. 第69回高エネルギー加速器研究機構教育研究評議会議事要録
- 3-1. 第3期中期目標期間評価の全体像
- 3-2. 教育研究に関する中期目標の達成状況報告書 ポイントまとめ(第3期中期目標期間終了時)
4. 業務の実績に関する報告書 ポイントまとめ(第3期中期目標期間終了時)
5. 人事異動
- 6-1. 令和5年度運営費交付金等概算要求事項等(案)
- 6-2. 令和5年度施設整備費概算要求事項一覧(案)
7. 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について
8. J-PARCセンターの運営体制について

議 事

1. 評議員の交代について

山内議長から、資料1に基づき、4月1日付けで新たに評議員に就任した中畑雅行氏(東京大学宇宙線研究所長)及び令和4年度より新たにオブザーバーとして出席する羽澄昌史氏(KEK 量子場計測システム国際拠点長)の紹介があり、それぞれ挨拶があった。

2. 第 69 回議事要録について

山内議長から、資料 1 の第 69 回議事要録については事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

3. 審議

(1) 第 3 期中期目標期間終了時に係る教育研究の達成状況報告書について

足立評議員から、資料 3 に基づき説明があり、資料のとおり了承された。なお、意見等を踏まえた今後の修正は、足立評議員に一任することとした。

<主な意見・質疑>

- ・教育研究の質の向上に関する 4 年目終了時における評価結果について、KEK のグローバル化は日本の中でも最先端だと思うが、なぜ「その他（グローバル化等）」の項目は「4」の評価となっているのか。

→「その他（グローバル化等）」は他機関との連携や海外機関との共同研究等を評価する項目であるが、4 年目終了時点では特段取り上げるべき事項が少なかったために「4」の評価となっている。第 3 期中期目標期間終了時点では、他機関との連携として大学共同利用研究教育アライアンスの立上げを取り上げたいと考えている。また、国際共同研究については、放射光実験施設のインドビームラインにおけるリモート実験体制の整備をアピールしていきたい。コロナ禍であっても、様々な事務的サポートによって当該ビームラインの専属担当者（インド人研究者）の来国を実現することができた好事例である。

(2) 第 3 期中期目標期間終了時に係る業務の実績に関する報告書について

足立評議員から、資料 4 に基づき説明があり、資料のとおり了承された。なお、意見等を踏まえた今後の修正は、足立評議員に一任することとした。

4. 報告

(1) 人事異動

山内議長から、資料 5 に基づき報告があった。

(2) 令和 5 年度概算要求について

内丸評議員及び幅評議員から、資料 6 に基づき報告があった。

(3) 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について

岡田評議員から、資料 7 に基づき報告があった。

<主な意見・質疑>

- ・博士学生支援事業について、実験系の学生は必ずしも博士課程を 3 年間で修了できない可能性があるが、その場合にはどのように扱うのか。

→総研大在学中のフェローシップについては、在籍期間が延びた場合であっても 3 年間のサポートの

み。KEK のフェローシップ（博士研究員としての2年間をサポートするもの）は、博士課程修了を前提として実施する。

- ・博士学生及び博士研究員に対するフェローシップ等の支援は徐々に手厚くなっている一方で、諸外国や企業に就職する場合に比べると収入の格差は依然として縮まっていない。将来に対する経済的な不安を取り除くことが、若手研究者が先端的研究に集中して取り組むためには重要である。できるだけ手厚い支援をお願いしたい。

(4) J-PARC センターの運営体制について

小林評議員から、資料9に基づき報告があった。

(5) その他

山内議長から、KEK 国際諮問委員会（Scientific Advisory Committee）（第三回）報告書に基づき、報告があった。

<主な意見・質疑>

- ・「4. Section 8 of the Draft KEK-PIP2022」中の Category II について、4つの研究計画が挙げられているが、これらは上から（1から）順に優先度が高いということか。

→そのとおり。

- ・Category I と II の違いは何か。

→Category I は、優先順位とは無関係に進めるべきもの。予算規模は然程大きくないため、Category II と並行して取り組んでいく。

5. 研究活動報告

- (1) 齊藤評議員（素粒子原子核研究所長）から、素粒子原子核研究所の研究活動状況について報告があった。
- (2) 小杉評議員（物質構造科学研究所長）から、物質構造科学研究所の研究活動状況について報告があった。
- (3) 小関評議員（加速器研究施設長）から、加速器研究施設の研究活動状況について報告があった。
- (4) 波戸評議員（共通基盤研究施設長）から、共通基盤研究施設の研究活動状況について報告があった。
- (5) 羽澄量子場計測システム国際拠点長から、同拠点の研究活動状況について報告があった。

6. 自由討論

- ・昨今の電力料金の値上げについて、今年度の影響や概算要求上の見通しを教えてください。
- 電気料金は、現在のところ一般家庭において4割ほどの割増傾向にあると言われており、KEK においてもこれに近い割合で増加する見込み。つくばキャンパスの SuperKEKB 及び PF 並びに J-PARC における各種加速器は、とりわけ電力使用量が多く、今年度の運転時間も見直す必要があるだろう。SuperKEKB は、3か月運転した後に長期シャットダウンに入る予定であり比較的影響は少ないと思われるが、それ以外の施設は冬期にも運転するため非常に厳しい状況。これらを可能な限り運転するためには、裁量的に使用できるよう確保している予算を目一杯使わなければならない。この厳しい状況は、ロシアーウクライ

ナの戦争が終わり天然ガスの流通が戻らない限り続いていくだろう。なお、電気調達の代替手段として、例えば、つくばキャンパスに太陽光発電設備を敷き詰めることも検討しているが、試算では年間電力使用量の6%しか賅うことができない。引き続き対策を検討しつつ、この現状を文部科学省に伝えて、政府として支援を検討してもらえよう相談する。

- ・測定器開発センターは、機構内の様々なプロジェクトが持っている測定器の試験・開発をする組織か。
- そのとおり。既存の実験に限らず、測定器に係る技術開発を進めていく。
- ・将来加速器を検討する枠組みはあるのか。
- 機構としてはロードマップやKEK-PIP、素核研としては研究計画委員会といった枠組みがある。2030年ころまでに向けた将来計画はほぼ完成しているが、もし今後変更が生じた際には、これらの枠組みの中でも都度検討していきたい。将来計画や装置の構想については、高エネルギー委員会の将来計画委員会や核物理のコミュニティとも密接に議論しつつ、進めていきたい。
- ・大学共同利用研究教育アライアンスについて、総研大と大学共同利用機関との間では教育の連携を、大学共同利用機関間では研究の連携を推進すると聞いているが、他にはどのような取組があるのか。
- 今までもKEKと国立天文台の連携など個々の大学共同利用機関間での取組は存在していたが、今後、大学共同利用機関間でどのような連携ができるかについては、引き続きアライアンスで議論していく。その際、第3期中にも実施していたI-URIC フロンティアコロキウムや文理融合プログラムをアレンジしたものも含めて検討することになるだろう。また、すべての機関が関係する取組として、DX推進やデータサイエンスについても検討を進める。

7. その他

山内議長から、次回の評議会は令和4年12月16日（金）10時00分から開催するとの案内があり、閉会した。

以上